



温(おん)と厨(くり)を味わう 湯治リゾート

写真と文 久保亮吾

露天風呂。古湯温泉は無色無臭、爽に開放的で気持ちが良い



砂蒸し温泉。この砂に埋まってみるこ15分。汗が噴き出る！

おんくりの中には砂蒸し温泉がある。鹿児島島の指宿などが有名な、砂に埋まる風呂だ。浴衣を着て、おばちゃんに埋めてもらう。顔だけ出して、こんもりと砂を盛る。想像以上に重くて、これが全身を指圧してくれているような感覚だ。

十五分埋まって汗をかき、その後には浴衣を脱ぎ砂を洗い流してから階段を降りて大浴場へと向かう。

おばちゃんが「せからしかですけどねえ」と、こちらをいたわるような声をかけてくれた。佐賀弁だが、たぶん「いろいろ作業が多くてわすれませすねえ」という意味だと思われる。いえいえ、ただ大浴場に浸かるより、よっぽど楽しい。

佐賀県佐賀市にある古湯温泉。古文書に書いてあることによると、中国の秦の始皇帝から不老長寿の薬を探して来いと命令された徐福が現在の佐賀あたりにたどりついて、そこで「湯の神」の指示で見つけたのがこの温泉だといふ。が、この徐福という人物は日本各地にその伝説を残している人で、結局、皇帝に結果の報告をしなかったさうだから、このあたりは伝説のレベルだろう。

ともかくも不老長寿の薬を探した人物の伝説にまつわるほど体に良い湯だという解釈をすればいいだろうか。最近の逸話では歌人の斉藤茂吉がスペイン風邪を癒すため

にここで湯治をしたという。医学博士でもある茂吉がここを選んだというのだから、効能には説得力がありそうだ。

おんくりは、もともと吉花亭という当地の旅館が再生した宿である。コンセプトは「ぬる湯につかり時を忘れる、山峡の湯治リゾート」。そう、古湯温泉の最大の特徴は「ぬる湯」であるということ。ぬるい湯にじっくりと浸かることで心身を癒すことができるのだ。

おんくり、は感謝の想いを込めた「恩送り」、つまりは感謝の連鎖の意。さらには温泉の「おん」と調理場、すなわち厨の「くり」から取った名前。ここでは温泉にじっくり浸かり、美味しく体に良い食事をいただく。

レストラン「SEBRI」の料理監修は上柿元勝シェフ。言わずもがな、料理界の重鎮であるが、ここでは九州の食材を生かしたナチュラルイタリアンを出すという。

広々とした大浴場に長々と浸かる。どこかで、ケタケタ、ケタケタと蛙が鳴いている。

はてさて、二千年前に徐福はここまで来たのだろうか。来てはみたものの、あまりにいい湯だったので皇帝には教えず自分だけ楽しんだか。そのあたりの事は謎のままのほうが神秘的であり、謎についていろいろと思いつくが、よりいっそう長湯できるのである。



レストラン「SEBRI/セブリ」では、上柿元勝シェフ監修によるナチュラル志向のイタリアンを提供する

古湯温泉 「ONCRI/おんくり」

所在地=佐賀県佐賀市富士町古湯556
TEL=0952・51・8111
敷地面積=4万9452㎡
客室数=38室
料金=1万8000円(スタンダード)、2万2000円(特別室)、2万5000円(ラグジュアリーツイン)、料金は2名利用時の1人あたり・1泊2食付き/施設=バー&レストラン「SEBRI/セブリ」、和食処「季味」、パンケトルーム「飛天」、湯処「SHIORI/しおり」、天然砂蒸し温泉、足湯、ライブラリー、スーベニアショップ、キッズスペース、ギャラリー
URL=<http://www.oncri.com>



モダンなデザインに改装された6階の客室

スーベニアショップの奥の棚にはたくさんの有田焼き



客室階にあるライブラリースペース。コーヒーを飲みながら読書でも

ONCRIのフロント。奥に見えるのはスーベニアショップとキッズスペース

